共にしあわせ産みだす党　日本共産党
市議団ニュース
第1811号　2016年9月4日
日本共産党　根室市議団
根室市宝林町4-203　TEL23-6023

コンブ漁業の課題や産業振興策を視察

【根室市議会　産業経済常任委員会】

2016年8月17日～19日

根室市議会の産業経済常任委員会（千葉委員長）は、行政視察のため、北大北方生物圏フィールド科学センター忍路臨海実験場を訪問しました。

ここでの視察テーマは、道内の昆布漁業の現状と沿岸海域の環境変化との因果関係について、今後の昆布漁業の生産量と課題について、です。

この日、北海道に上陸した台風7号による荒天のため、海上から磯焼けの状況をみることはできませんでしたが、忍路臨海実験場の所長である四ツ倉典滋准教授より、北海道の昆布をとりまく現状と課題について講義を受けました。

四ツ倉准教授は、「海水温の上昇や海中の栄養の低下など生育環境が変化したことによって、資源量の減少やコンブの分布に変化が起こっている。また中国では養殖のマコンブが年間100万トン生産されている。こうした中、日本のコンブはどのように差別化を図っていくのか。食文化を守る観点からも、世界に類の無い日本のコンブを残していく必要がある。

選抜や掛け合わせ等により高水温化対策を図り、生産性向上への取り組みをすすめていくことは可能だが、勝手に進めることは出来ない。組合、漁業者、行政、研究者などいろいろな団体が横の連携を図っていくことが必要」と強調して、お話しをされていました。

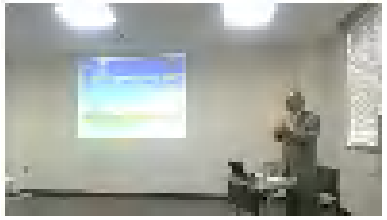
北大北方生物圏フィールド科学センター忍路臨海実験場。石狩湾に面し、1908年に設立された歴史ある建物です↓

18日は、函館市の国際水産・海洋総合研究センター、北海道立工業技術センターを訪問し、水産物を利用した新たな地域産業の取り組みについて、ご説明をいただきました。

函館市は「国際水産・海洋都市構想」のもと、しっかりとした産学官そして金融機関の連携による地域全体の取り組みを以前から進めています。

根室市でも現在産業振興ビジョンを作成中ですが、今後どのような視点をもって検討をすすめていく必要があるか、参考になりました。

特に大学、研究機関との関係性について、そうした機関が現地に無い根室市だからこそ、これまで以上にしっかりとした形で、取り組んで行く必要があると感じました。



北海道庁やJR北海道へ、当面する道政執行などに関する要請を実施

日本共産党地方議員団

8月22日、日本共産党の道議会議員と道内市町村の地方議員が一堂に集まり、北海道とJR北海道、開発局に対し、それぞれの地域における課題について、要請を行いました。根室市からは鈴木一彦議員と橋本竜一が参加しました。

先月、根室振興局に提出・懇談した要望をもとに、サケマス対策、領土問題、海岸侵食・保全事業などの他、新たに鉄道路線の見直しが懸念されるJR北海道に対しても要望活動を行っています。

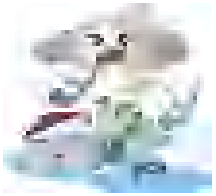
なお今回は、台風11号および9号による災害に備え、神忠志議員は根室に残って対応にあたりました。

台風被害へ政府は支援を

2016年8月29日
衆議院議員　畠山和也

道内各地の台風被害の調査にまわると想像を超える、驚くような実態ばかりでした。畑が全面的になくなっている、線路が埋まるほどの土砂が流れている--。

一週間に3つの台風に襲われ過去最高の雨量となり、大きな災害となりました。党道委員会は、私を本部長に、党道議団と森つねと道国政相談室長を副本部長とする災害対策本部を立ち上げました。私は十勝・日高・北見地方に足を運びました。



土砂崩れの直撃を受けた日高町の水産加工会社では、「従業員10人で泥をかきだした。4つある大型冷蔵庫のうち無事だったのは一つだけ」。

常呂川の氾濫でタマネギ畑が全面流失した北見市端野の農家からは、「雪が降る前に農地改修できなければ、来年は営農できなくなる」。

見渡す限り見えるのは、流木や土砂ばかりでした。

端野で亡くなられた男性の、お父さんにもお会いしました。胸が痛みました。「 同じような被害が出ないように、政治でも力を尽くします」と話すことで、私も正直いっぱいでした。

個別に省庁と連絡を取ったり、8月29日には紙智子・岩渕友の両参院議員と道議団とで、政府交渉をおこなうなかで要望を反映させました。

さらに被害の把握を続け、政府へも二度三度と支援を求めます。

再び台風・大雨が来ないとも限りませんので、ぜひみなさんもお気をつけください。